

モニタリングの方法 (実践研修)

本講義・演習は、前段としての話と、四つのSectionごとにミニ講義＋グループワークといった構成になっています。本講義映像は、各Sectionの演習ごとに停止、再開を繰り返して下さい。尚、別途進行・ファシリテーター用の資料データがありますので、ご参照下さい。

(社福)けやきの郷 事業本部長
コンサルテーションサポート森の入口

菊本圭一
金丸博一

1

本講義の内容・目的

◎事業所のモニタリングについて、サービス等利用計画との連動性を念頭に置きながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行ない、その手法を獲得する。

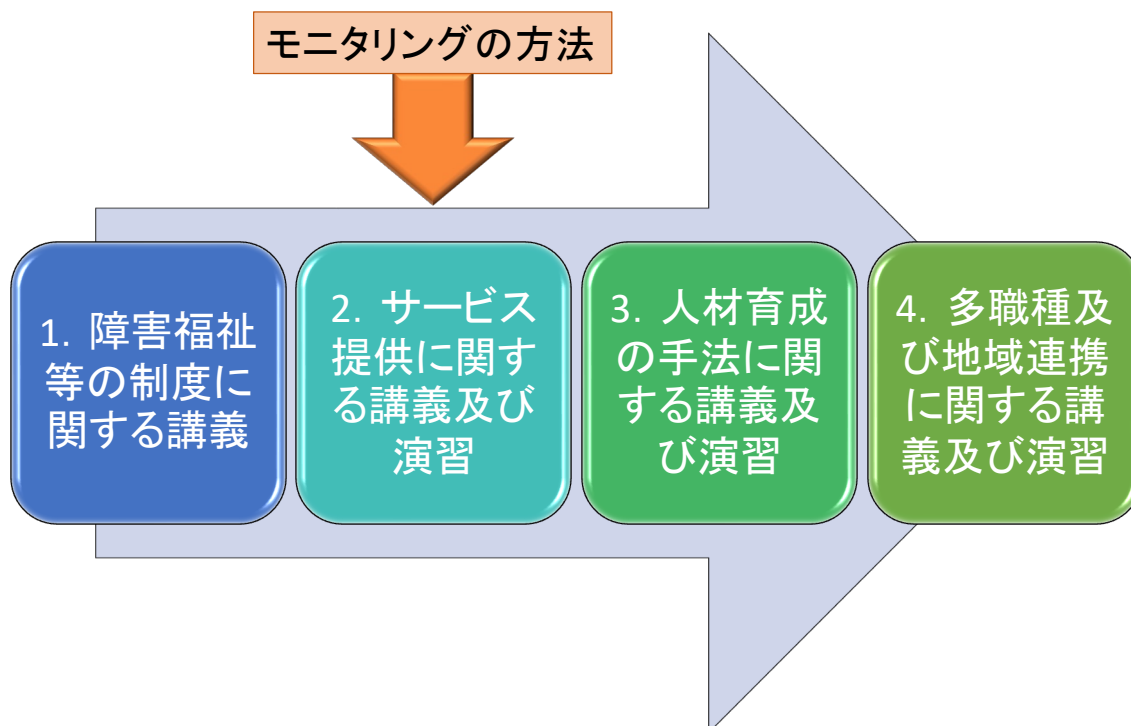
2

実践研修カリキュラム

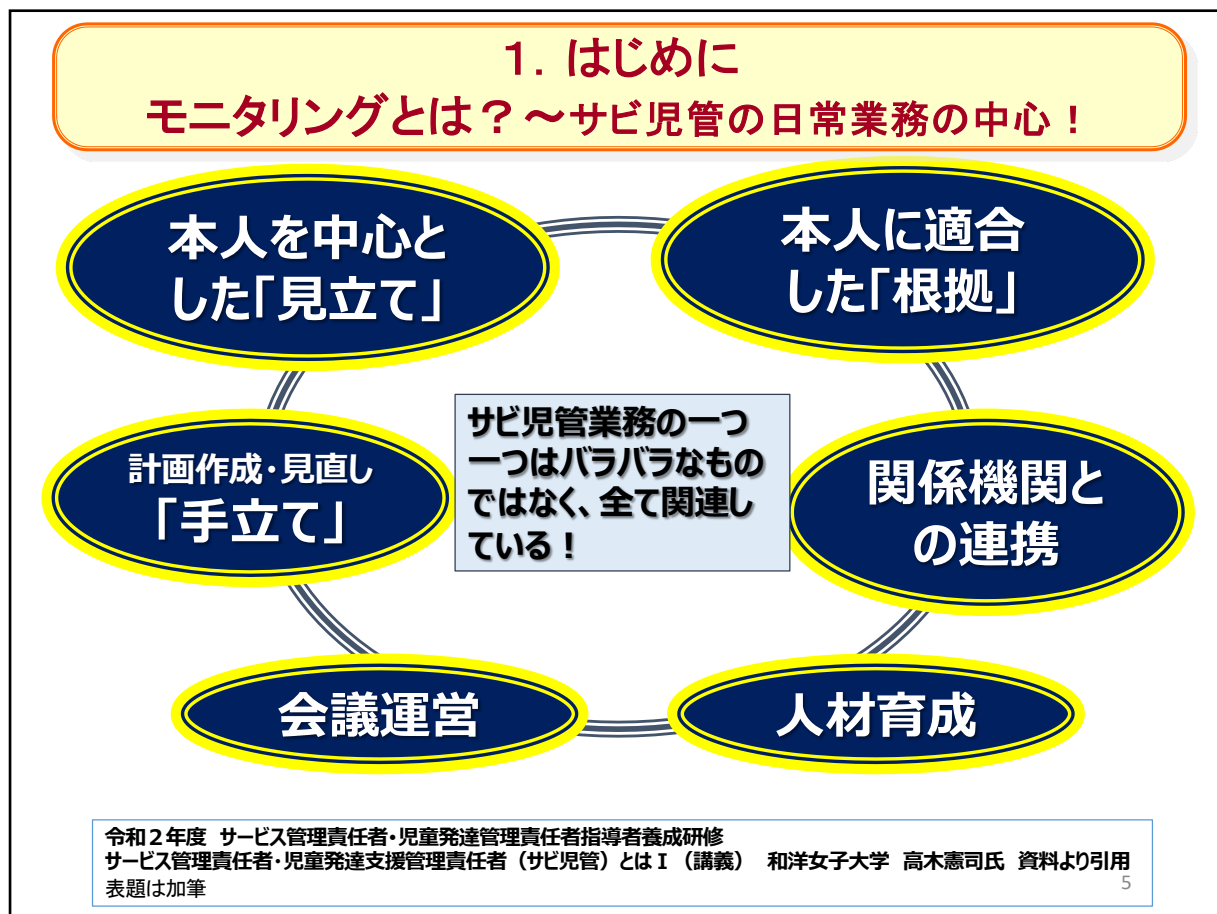
科 目	内 容・目 的	時間数
1. 障害福祉等の制度に関する講義（1時間）		
障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向（講義）	・障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向について講義により理解する。それにより、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。	60分
2. サービス提供に関する講義及び演習（6.5時間）		
モニタリングの方法（講義・演習）	・事業所のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行い、その手法を獲得する。	120分
個別支援会議の運営方法（講義・演習）	・個別支援会議の意義、進め方、行うべき事項（個別支援計画作成時、モニタリング時）等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議の実施体験演習を通じて、サービス管理責任者等としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験を基に、個別支援会議におけるサービス管理責任者等の役割についてグループワーク等により討議し、その役割についてまとめる。	270分
3. 人材育成の手法に関する講義及び演習（2.5時間）		
サービス提供職員への助言・指導について（講義・演習）	・サービス提供職員への支援内容、権利擁護・法令遵守等に関する確認や助言・指導を適切に実施するための方法等について講義により理解する。 ・講義を踏まえて、受講者が事業所において実施している助言・指導業務について、グループワーク等により振り返るとともに、今後の取り組み方について討議する。	90分
OJTとしての事例検討会の進め方（講義・演習）	・事例検討の目的、方法、効果等について講義により理解する。また、事例検討会の実施がチームアプローチの強化や人材育成にも効果を有することを理解する。 ・受講者が持ち寄った実践事例を基に、事例検討会を行い、体験を通して事例検討会の進め方を習得する。	120分
4. 多職種及び地域連携に関する講義及び演習（3.5時間）		
サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割（多職種連携や地域連携の実践的事例からサービス担当者会議のポイントの整理）（講義）	・多職種連携や地域連携の実践事例を活用し、サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割（相談支援専門員との連携や関係機関との連携方法）について講義により理解する。	50分
（自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取り組み（講義）	・（自立支援）協議会の意義、目的、活動内容等について講義を通じて理解する。 ・サービス管理責任者等の業務を通して見いだされる地域課題を解決するための（自立支援）協議会の活用について実践報告等により学ぶ。	50分
サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ（演習）	・サービス担当者会議や（自立支援）協議会に関する講義を踏まえ、多職種連携や地域連携の重要性、意義、ポイントについてグループワーク等による討議をとおして、連携のあり方についてまとめを行う。	110分
合計時間数		14.5時間

3

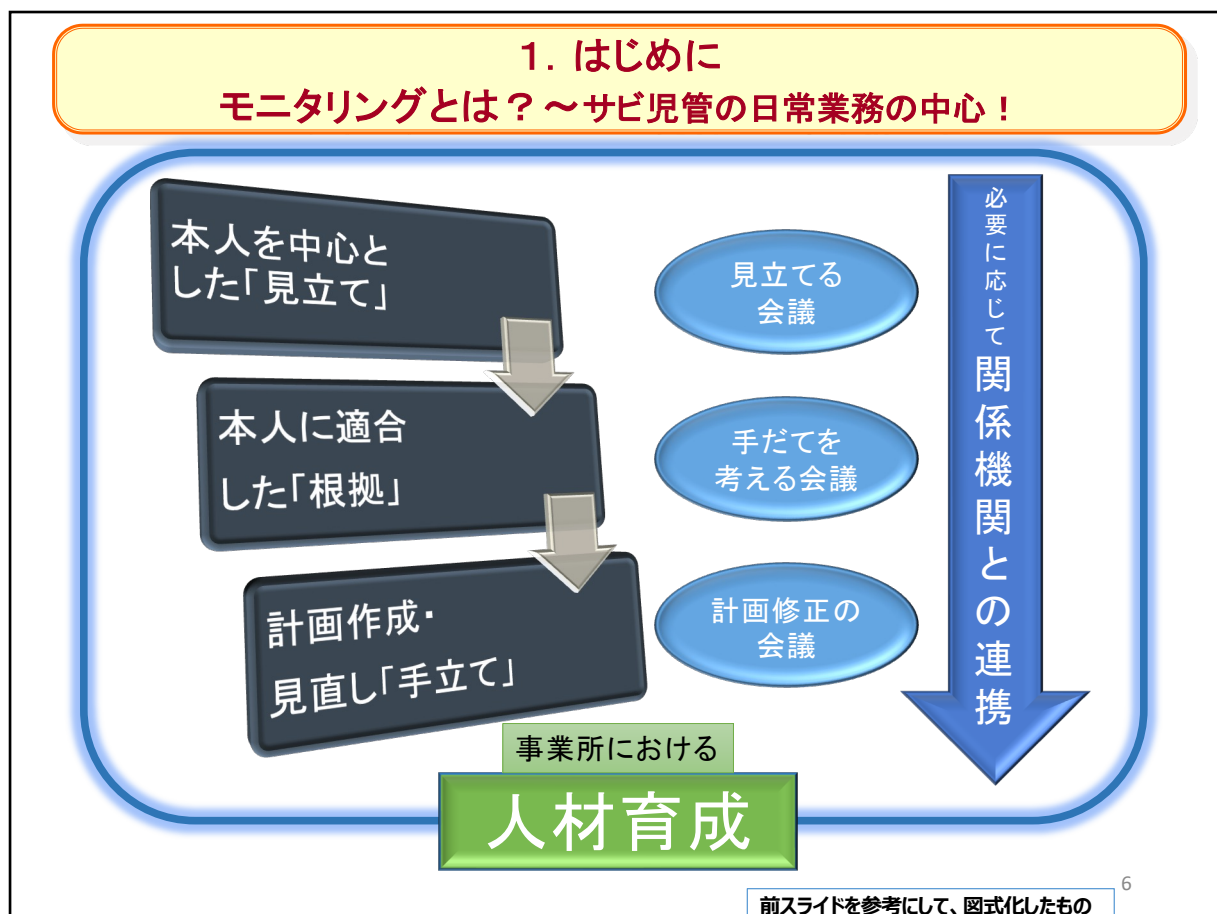
実践研修カリキュラム



4



5



6

1. はじめに 本講義で学んでいくことの背景

効果的なサービス(支援)を提供していくためには

支援対象者には潜在的な力があるという信頼を持つことが前提となる

そのためには

支援対象者との信頼関係づくりがベースとなる。

そのためには

ネガティブ視点あるいは弱みの視点ではなく、ストレングス視点が重要

加えて、障害特性という先入観に縛られない事実の記録作成の練習も重要

「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第1部第1章を参考

7

7

1. はじめに 本講義で学んでいくことの背景

障害を持つ人びとの望む生活を実現していくためには...

こういった地域の社会資源が、多くの人々に共通するであろう人生目標を達成するために役に立つのかを検討しわかってきたことは、地域には自然発生的に存在するさまざまな社会資源がありながら、当事者本人の目標を支援するために、それらの資源が有効に使われていないことである。

「診断する側—される側」、また、「援助する側—される側」という一方向の関係性(医療・診断モデル)から解放され、自身のストレングスを認識し、地域での人間的な関係性を取り戻すことである。

「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第1部第2章より引用

8

8

1. はじめに 本講義で学んでいくことの背景

ストレングスモデルの6原理

障害を持つ人も、リカバリーすることができる。

焦点は、個人のストレングスであり、欠陥ではない。

地域は、利用可能な資源の宝庫である。

支援関係を導くのはクライアント本人である。

クライアントとケアマネージャーの人間的な繋がりが不可欠である。

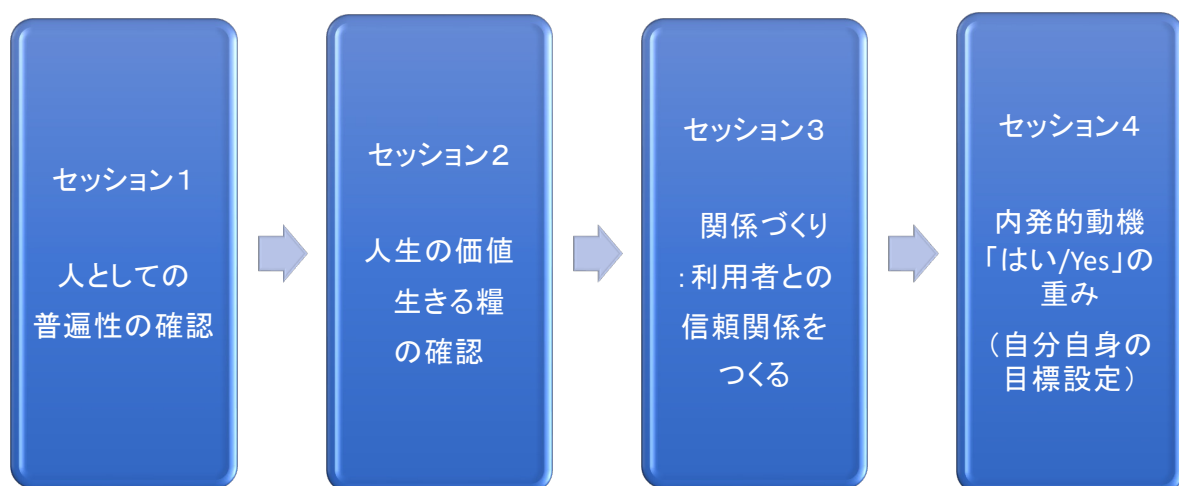
支援は地域のなかで行なわれる。

「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第1部第2章より引用

9

9

2. 本講義・演習の流れ



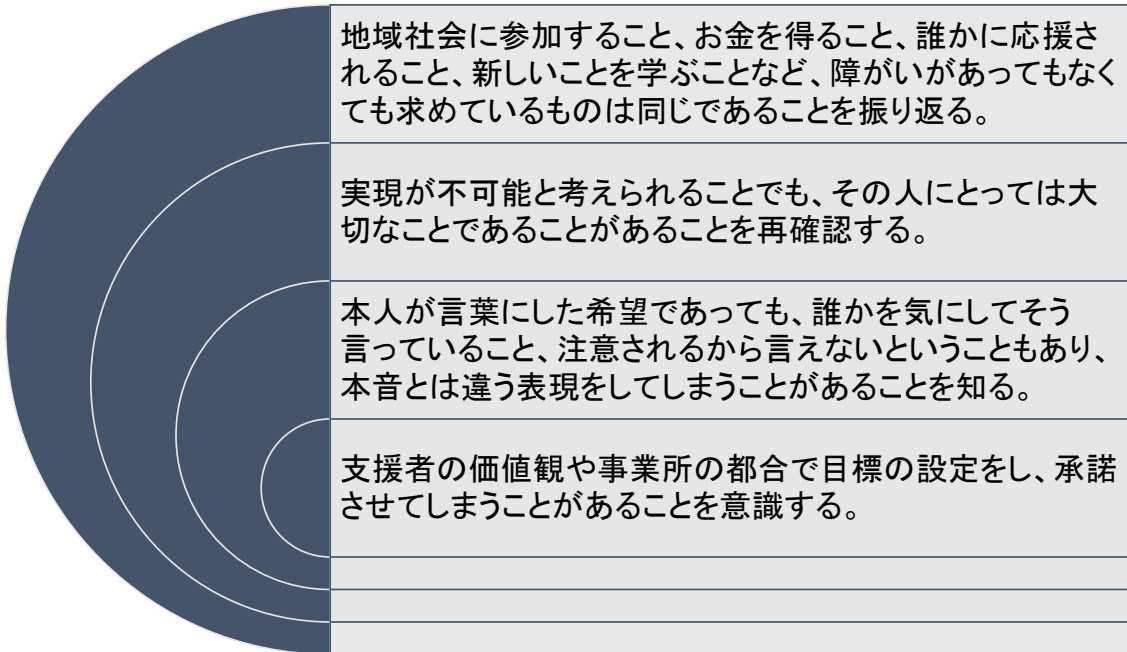
目標設定の原則と効果的な長期目標の設定のために知っておくべきことを学び、なぜ目標に到達できないのかを振り返る！

「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第Ⅱ部を一部引用

10

10

2. 本講義・演習の流れと目的



「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第1部第1章を一部引用

11

11

3. 本論

section1～
section4



12

12

Section1 人としての普遍性の確認

Section1の目的

障害者の支援は特別なものではなく、自分と同じ人間としての変化・成長を理解し、それらを前提に支援していくということを振り返っていく。

そのために、障害のある人も私たち（受講者）と同様に人生のさまざまな場面で困難な状況があることを振り返っていく。

13

13

Section1 人としての普遍性の確認

《問1》あなたは、過去に悲しかったことやつらかったことなど、困難な状況を経験したことがありますか？

《問2》どのようにして、困難な状況を克服してきましたか？

《問3》普段から介助や支援をしている利用者は、障害があるかないかで、悲しかったことやつらかったことなど、困難な状況に大きな違いがありますか？変わらないと思いますか？

14

14

Section1 人としての普遍性の確認

グループワーク

15

15

Section2 人生の価値 生きる糧の確認

Section2の目的

自分自身が人生において大事にしているものを確認し、他人から見たらほんのささいなことでも、自分自身にとっては非常に重要な事柄があることを理解する。

また、人が何かの行動を起こす時には、内発的な動機が必要となることも理解する。

16

16

Section2 人生の価値 生きる糧の確認

自分自身の何気ない日常を振り返ってみましょう。あなたにとっては、どのようなことが心の糧（心が安定する活動や行動）になっていますか？最近の心の糧になっていることをシートに記入していきましょう。

17

17

「心の糧」について

「心の糧」は、私たちの生活をよくするために、日常生活の中で私たちが行うことです。仕事、コミュニティ、家族の絆や友人からの信頼といった重要なものもあります。

また、私たちの生活の中で喜びを感じるためのものやその人が好きなことは、日常の些細なことであっても本人にとってはとても大切になります。

心の糧は能動的なことであり、受動的なことではありません。眠くならないので睡眠薬を飲むことは心の糧ではありません。よく眠れるようにベッドに入り読書をすることは心の糧になります。

心の糧は遠い将来の目標ではなく、今できること、やっていることです。

「仕事をしたい」は糧ではなく、忙しく仕事をする事で集中し、収入を得て、好きなものを買うことで心が安定することは心の糧です。社会参加を支えるための生きがいになります。

18

あなたの心の糧シート

心の糧(心が安定する活動や行動)		それはあなたにとってどのように役立ちますか？	優先順位
例: 休みや予定のない日にあなたが楽しんだり、ほっとしていること	公園の散歩	自然との結びつきを感じ、気持ちを切り替えられる。	
休みや予定のない日にあなたが楽しんだり、ほっとしていること			
自分の先々に向け、大切だと思ってやっていること(やってみたこと)			
日々の生活のなかで楽しんでいること			
あなたが不快に感じるときに役立つこと			
これまでの人生のなかで最も重要だと思っていること			

19

Section2 人生の価値 生きる糧の確認

個人ワーク(シート記入)
+
グループワーク

20

20

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

Section3の目的

利用者との信頼関係をつくれなければ、利用者の得意なこと、良いところ、興味などを知り、また見つけていくことはできないことを確認する。

利用者の夢や希望を分かち合うためには支援者と利用者のお互いの協力と強い絆が必要であることを確認する。

そのために、自分自身が「支援してもらった」経験を思い出し、「支援される側」の想いや求めていることを振り返っていく。

21

21

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

効果的な支援の関係づくりとは?

①目的に向かって進むこと

利用者が新たな生き方の再発見をしていくことを支援していく。

利用者と支援者は、一緒にすべきこと(計画)を明らかにしていく。

②相互に利益を得ること(対等な関係・互恵)

互いに学び、支援者は利用者と一緒に過ごす時間を楽しんでいく。

サービスを一方的に提供し、時に管理し、従わせるようでは、利用者は気持ちを閉ざしていくことになる。

22

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

効果的な支援の関係づくりとは?

③誠実な信頼関係づくり(純粹・こころから親身になる)

普通の友好関係であり、温かさ/受容/気遣い/尊重/楽しさがある。

責任感や誠意を感じさせる機会をつくり、接し方に工夫をしていく。

④信頼ある関係づくり

関係づくりは、相互の信頼と相互の尊敬に基づく。

そのためにも、「一緒に～しませんか」と誘ったり、「～してもいいですか」と許可を得たりするよう努める。

お互いの経験を分かち合い、声に出せる環境作りに尽力し、断定する言い方を避けていく。

23

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

効果的な支援の関係づくりとは?

⑤エンパワメントを促す関係づくり

エンパワメントとは、一人ひとりが本来持っている力を発揮し、自らの意思決定により自発的に行動できるようにすること。

それは、自分らしさに自信と誇りを感じていくことであり、自らの意思で行動し、誰かに反対されることでもやりきろうとすることがあるということ。

それは、情報を自ら手に入れ、さまざまな社会資源を利用していくこと。また、そのための選択を自ら行ない、選択できる機会を必要に応じて得ること。

それは、必要と感じたら、社会的に認められる範囲で、生活スタイルなど生き方そのものを変えていっても良いと常々感じていること。

その人自身が持っている力を発揮できるように手助けしていく。

24

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

一方では・・・

専門家と友人との違い

専門家としての「支援する関係」は...

- ① 利用者と友人になることを目的や役割にしない。
- ② 業務や時間によって制限される。
- ③ サービス利用者として位置づけて行われる。
- ④ 計画的であり、統制された関係である。



だからこそ、個別支援計画は必要となってくる！

25

25

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

あなたのこれまでの人生の中で、誰かに助けてもらった経験を思い出してください。

▼どんな時に、誰に、どのように助けてもらいましたか。

▼その時の相手の接し方(声のかけ方、表情、誘い方、励まし方など)はどのようなでしたか

どのような支援が効果的なのかを考えてみましょう。

見守られてうれしいとき、つらいときがあること。励まされて元気が出る
とき、却ってイライラしてしまうときがあること。課題を示されて、前向き
になるとき、自信をなくすときがあること。等についても考えてみましょう。

26

26

Section3 関係づくり:利用者との信頼関係をつくる

グループワーク

27

27

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

Section4の目的

受講生も自分の人生の目標が上手いかなかったり、別なものに変わってきたことを確認する。

それはいけないことではなく、人として当たり前のこと
捉える。利用者も私たちと一緒にだと気づいていく。

うまくいかない理由は、ひとそれぞれだが、人が生活を変
える時はそれなりの理由が必要となる(内発的動機)ことを
振り返る。

28

28

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

《問1》みなさんは小中学生の頃、どんな夢をもっていましたか？(現在はその夢を追うことはあきらめてしまったということを、教えてください。)

《問2》その夢をあきらめたのはどうしてですか？

夢をあきらめるということは、多くの人が経験することであり、同じような理由で夢をあきらめていることがあるということ。夢をあきらめて後悔し続けている人はいるが、多くは気持ちを切り替えて、次の現実的な目標や、自分なりの落としどころを見つけて生きているということを振り返りましょう！

29

29

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

グループワーク

30

30

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

《問3》今の生活において、あなた自身を変えていきたいことや目標を持って取り組んでいることがありますか？

この設問は、聴き取り役と答えていく役に分かれて行ないましょう。

この設問は、変えていきたいことは？今の目標は？と直接的に尋ねないようにし、趣味や関心のあることや、困っていることやつらいこと、励みになっていること、継続的に楽しんでいることなど、相手が答えやすい雰囲気作りに気をつけ、上手にリアクションしながら、日常会話のように聴き取っていきましょう。

聴き取り役は、話をしながら、相手が何について「変えていきたい」「目標としている」と考えているのかを推測していきましょう。

聴き取った内容を元に「あなたのプランシート」を作成していきますので、そのシートを意識しながら、会話をしていきましょう。

31

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

「あなたのプランシート」を作成していきます。

まずは、長期目標(何年後の目標とするのかは問いません。)を決めていきます。聴き手役はその提案理由を述べていきましょう。プランを作ってもらう方は、それに対して感想や意見を言ってください。話し合った結果を長期目標としていきます。

長期目標を設定したら、話し合いの中でプランを作ってもらう方が納得した理由を書き込んでいきましょう。

それから、小目標とその目標を達成していくために、具体的に何をするのかを書いていきます。(あまり時間はないと思いますので、ひとまず、聴き手役が思いついたことを書き込んでいきましょう。)

話し合いの時間は決めておき、その時間内で出てきたことを書き込んでいきましょう。

あなたのプランシート

長 期 目 標		
理 由 (なぜ大事なのか)		
小 目 標	何 から 始 め る か (具 体 的 に)	いつまでに

* 小目標は1週間から10日程度で達成可能なものとします。

33

33

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

「あなたのプランシート」で設定した目標が、どのくらいの可能性で達成できるのかを確認していきます。

小目標について、以下の3点について10点満点で評価してもらいましょう。

- ①この目標は自分にとってどのくらい大切ですか？
- ②この目標を達成していくことに、どのくらい自信がありますか？
- ③この目標を達成していくのに、どのくらい時間がかかりそうですか？

①	0 3 5 7 10
②	0 3 5 7 10
③	0 3 5 7 10

低い点数をつけた場合は、その気持ちを聴き手と共有していきましょう。

34

34

Section4 内発的動機:「はい/Yes」の重み(自分自身の目標設定)

グループワーク

35

35

4. 本講義・演習のまとめ

Section4の振り返り

明確で、測定可能で、到達可能で、利用者のペースで、時期にかなっているものだったでしょうか。

「明確」とは、プランの対象者が目標を具体的にイメージできるものかということです。

「測定可能」とは、目標の達成状況を評価をするときに、例えば10点満点で何点なのか評価しやすい目標だったかということです。

「到達可能」とは、設定した時期に目標が達成できないようだったかということです。

「利用者のペース」とは、家庭の状況、障害の特性や状態、目標を設定するときの心情等を考慮したかということです。

36

36

4. 本講義・演習のまとめ

Section4の振り返り

低い点数をつけた場合のプラン対象者の気持ちを整理しましょう！

目標を提案されたときに、「それでいいです！」と言わないと支援者に悪いのではないかと感じたのではないか。

他にこうしたいとか思いつかないから、何となくそれでいいと思ったのではないか。

何をやるにしてもとにかく自信がないので、とりあえず提案してもらったことに取り組んでみようと思ったのではないか。

時間がないし、何か決めないといけないと思って、それでいいやという気持ちになったのではないか。

支援目標を提案されたときの利用者の気持ちを考えてみましょう！

37

4. 本講義・演習のまとめ

なぜ目標が達成されないのかを考えてみましょう！

立てられた目標が利用者の目標ではない。

目標を達成するために必要な地域資源を利用することができない。

資源の関係者やサービス提供者が、利用者のニーズに応えていない。

目標を達成するために必要な技術が欠落している。

目標を達成するために必要な情報がないことや、間違った情報が入手されている。

失敗に対する恐れ 成功に対する恐れがある。

同時期にたくさんの目標を達成させようとしている。

目標達成のための時間が十分でない。

目標設定が高すぎる、低すぎる。

38

38

4. 本講義・演習のまとめ

なぜ目標が達成されないのかを考えてみましょう！

目標が利用者にとって楽しくない。

目標達成に向けて本人の意欲を肯定的に強めるものがなく、やっても見合った評価がない。

目標設定時と比べて環境が変化してしまい、実行できそうな目標ではなかった。

目標を支援しない利用者の周りの人からの影響。

利用者がとても疲れている。病気になった。

長期目標が短期の実現可能な段階に分けられていない(スモールステップ)。

目標が非常に抽象的で、具体的になっていない。

等々

39

4. 本講義・演習のまとめ

なぜ目標が達成されないのかを考えてみましょう！

利用者を尊敬することが大切。

利用者がしたいことを、サービス管理責任者に打ち明けてくれることが重要。

児童発達管理責任者の場合でも、対象はこども本人であり、行動で意思を表現している。

こどもに事業所スタッフが信頼されている姿を見て、保護者の気持ちはほぐれてくる。

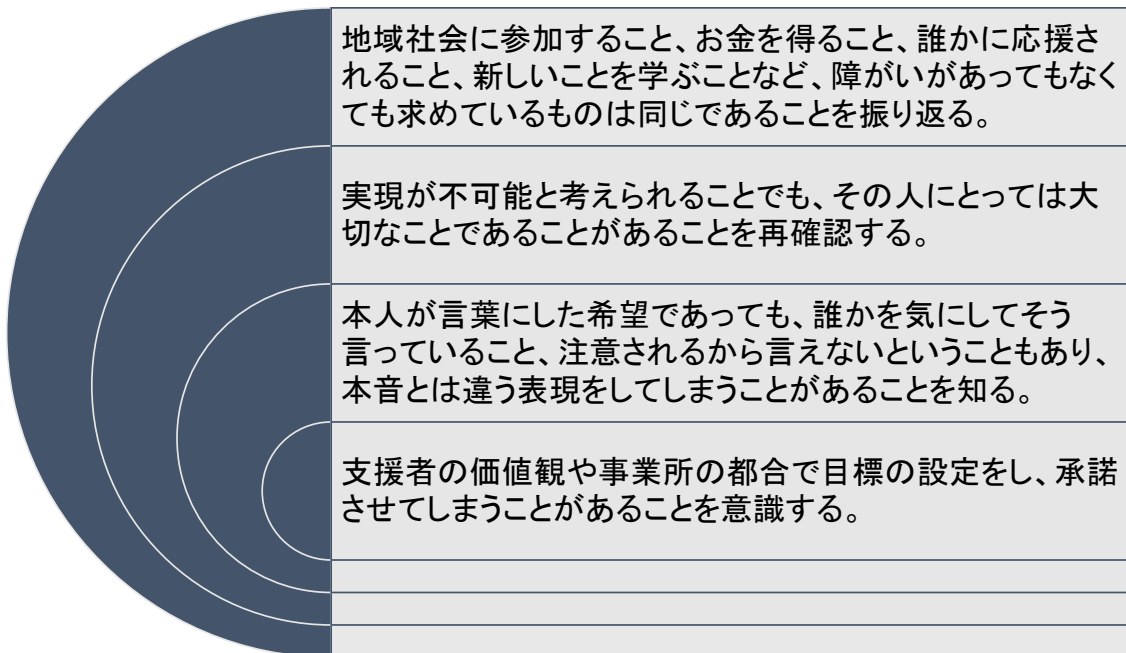
そのためには、信頼関係が重要である。

支援者は、利用者は必ず、自分がしたいことに向かって動き出すことを忘れてはならない。

40

40

4. 本講義・演習のまとめ(再掲)



「ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル」 監修 小澤温 編集 埼玉県相談支援専門員協会
中央法規 第1部第1章を一部引用

41

41

4. 本講義・演習のまとめ



「魔法はご本人の中にある」

本講義・演習を序章として、次の「個別支援会議の運営方法」を展開していきます。本講義・演習で気づいたことを、しっかりと心に留めて、次の講義・演習にのぞんでください。

42

42